

一人称・二人称における接尾辞「がる」の

使用実態について

—文末用法に着目して—

尾藤 眞裕

【キーワード】

接尾辞、がる、BCCWJ、文末用法

【要旨】

本稿は、一人称・二人称¹主語の文における接尾辞「がる」に注目し、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて、その使用実態を調査するものである。文末に現れる接尾辞「がる」に焦点を当て、一人称と二人称においていつ接尾辞「がる」が使用されるのか、それぞれの使用場面を分析した。そして、これまで言及されてこなかった二人称と共起する接尾辞「がる」を、指導ポイントとして取り入れていく必要性について述べる。

1. はじめに

日本語の感情・感覚形容詞には人称制限があり、主語が三人称の場合、(1)のように言い切りの形を取ることができない。日本語教育の現場では、(2)のように三人称と接尾辞「がる」の共起を中心に指導が行われている。

(1) *彼女は悲しい。 (作例)

(2) 彼女は悲しがる。 (作例)

しかしながら、一人称と二人称と接尾辞「がる」の共起も考えられる。劉(近刊)は、「一人称と二人称と『～がる』の関係がどうなのかが学習者に提示されていないという指導の盲点が存在」と述べており、一人称と二人称における接尾辞「がる」の使用が学習者にとって気になる箇所であることがわかる。

¹ 本稿では「主語に当たるもの」が一人称、二人称の用例を考察対象とした。その文の使用された場面において、話し手(書き手)を指すものを一人称、聞き手(読み手)を指すものを二人称、それ以外を三人称という扱いをする。

そこで、本稿では、一人称と二人称における接尾辞「がる」の使用実態を調査し、その特徴を記述するとともに、学習者に提示する際のポイントを示す。

2. 先行研究

先行研究において、一人称における接尾辞「がる」については、大きく4つのアプローチがある。文型から捉えるもの（三上1972、西尾1975、伊藤2019）、主節と従属節とを分けて考察したもの（『日本語教育事典』1982、田中1989、中里1992、鎌田2000、大塚2004）、視点について言及したもの（鎌田2000、澤田2004）、使用条件について言及したもの（『日本語教育事典』1982、『外国人のための基本語用例辞典（第三版）』1990、長友2000、富田2003、黄2004、韓2010）である。本稿に関わる論考としては、使用条件に言及したもの（黄2004、韓2010）を挙げる。黄（2004）は、「自分自身が以前に抱いた感情・感覚をとらえ、それを客体的にながめる」場合に、一人称において接尾辞「がる」が用いられると述べている。それに対して韓（2010）は、過去について述べる場合だけでなく、「発話時点」の自分について述べる場合においても一人称に接尾辞「がる」が用いられると指摘している。

これに対し、二人称における接尾辞「がる」について述べたものに森田（1988）、中里（1992）がある。森田（1988）は、二人称を主語とした疑問文でも接尾辞「がる」が用いられる例を挙げ、接尾辞「がる」を用いない形に置き換えが可能であると述べている。そして、(3)の場合は接尾辞「がる」の付加によって二人称が「そういうことを言う」といった「表出」の意味が加わり、(4)は「～ている」の形をとることで、「怖いという気持をある時点から持ち続け、今もそう思っている」といった意味が加わると述べている。

(3) (お前は) 洗礼もうけていなかった者の葬儀を、どうして教会でしたがるの
か。 (森田 1998 : 9)

(4) あなたは私を怖がっているの。 (森田 1998 : 9)

一方、中里（1992）は、従属節における「たい」と「たがる」の使い分けの検討を行っている。その中で、二人称の接尾辞「がる」の用例について触れられてはいるが、三人称と接尾辞「がる」の考察に主眼を置いたもので、二人称における接尾辞「がる」の振る舞いに特化した論考ではない。

以上見たように、先行研究では、一人称・二人称が主語の場合、具体的にどのような場面で接尾辞「がる」が使われるか、などその全体像について踏み込んだ議論がなされておらず、現段階の記述をもって学習者が直ちに援用できるとは考え難い。学習者への還元を考えた場合、使用場面を含む体系的な考察が必要である。また、先行研究では接尾辞「がる」に関して、使用実態の調査及びそれを踏まえた上での分析が不十分であると思われる。そこで本稿では、まずコーパスデータを用いて、一人称、二人称と接尾辞

「がる」の使用実態について分析し、考察を行う。

3. 調査及び分析結果

3-1 調査対象の限定

『日本国語大辞典（第二版）』（2001：1135-1136）は接尾辞「がる」について「名詞や形容詞、形容動詞の語幹に付いて動詞をつくる」接尾語であると説明している。本稿は、形容詞²の語幹に付いて動詞をつくる接尾辞「がる」を考察対象として限定する。そして、「言いたがる」や「読みたがる」のような願望の助動詞「たい」も、肯定文において主体が第三者の場合用いることができない、「い」を取って接尾辞「がる」をつけることで第三者にも用いることができる、などの点で感情・感覚形容詞と共通した性質を持っている。以上から、動詞に願望の助動詞「たい」が接続した表現についても感情・感覚形容詞に準ずる性質を持つものとして考察対象に含める。

3-2 調査方法

本稿では、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下略称（BCCWJ））³を使用データに選定した。このコーパスを選定した理由は、大規模な均衡コーパスであり、現代日本語の使用実態の調査に適しているためである。

次に、用例の抽出方法について述べる。本稿では検索アプリケーション『中納言』を用いて用例を抽出した。その際、すべての年代、すべてのジャンルを対象とした。『中納言』の短単位検索で、1) キー：指定しない、2) 後方共起「語彙素：がる」、「品詞：接尾辞：動詞的」を入力し検索した。その結果、6113 件の用例を得た。さらに「言いたがる」など、願望の助動詞「たい」に接続する用例も網羅するため、1) キー「指定しない」、2) 後方共起「語彙素：たがる」、「品詞：助動詞」を入力して得た用例 2488 件も加えた。上記の方法で合計 8601 例の用例を抽出した。目視で誤解析および対象外の表現を除き、考察対象を 7774 例とした。

² イ形容詞については、感情・感覚形容詞かそうでないかの判定を行わず、活用のある語で原形が「-い」で終わるものはすべて考察の対象とした。どの形容詞を感情・感覚形容詞とみなすか、従来の研究によって分類される形容詞がそれぞれ異なるためである。ナ形容詞の認定は、『日本国語大辞典（第二版）』（2001）によった。『日本国語大辞典（第二版）』（2001）で「(形動)」と記された語（つまりその語の後ろにナが現れ得る語）をナ形容詞として分類の対象とした。そして、「いきがる」の「いき」は漢字表記が「意気」と「粹」の2つある。「粹」について「(形動)」と記述があったため、漢字・平仮名表記に関わらず、ナ形容詞と考え考察対象に含めた。また、「きまり悪い」「気持ち悪い」「気味悪い」「気色悪い」「薄気味悪い」「気持ちいい」「面倒臭い」「照れ臭い」「物珍しい」「心細い」「口惜しい」「待ち遠しい」もそれぞれ1語ずつイ形容詞として拾った。「気味が悪い」「小気味が悪い」はイ形容詞「悪い」として考察の対象とした。

³ 検索日：2021年6月4日、中納言 2.4.5、データバージョン 2021.03。

3-3 調査結果

調査項目は 1) 人称別出現頻度、2) 発話文の出現頻度、3) 前接形容詞別の出現頻度、である。以下、結果を示す。なお、BCCWJ の用例には、括弧でサンプル ID を付した。

3-3-1 人称別の分類

用例を主語の人称別に分類し、その出現数をまとめたものが表 1 である。表 1 を確認すると、三人称の用例が多く、全体の 80%以上を占めることがわかった。一方で、一人称についても 689 例、二人称は 628 例の用例が見られ、一人称・二人称と「がる」の共起関係も注目されよう。

表 1 人称別接尾辞「がる」の用例数と割合

	一人称	二人称	三人称	合計
用例数	689	628	6457	7774
割合	8.86%	8.08%	83.06%	100%

3-3-2 発話文の分類

用例を発話文⁴かそれ以外に分類し、その出現数をまとめたものが表 2、表 3 である。

表 2 一人称発話文の割合と用例数

	発話文	それ以外	合計
用例数	206	483	689
割合	29.90%	69.81%	100%

表 3 二人称発話文の割合と用例数

	発話文	それ以外	合計
用例数	353	275	628
割合	56.21%	43.79%	100%

『教師と学習者のための日本語文型辞典』（1998：95）は以下のように記述している。

形容詞や欲求を表す「V-たい」の語幹に付いて、そのように思う、感じる、ふるまう、などの意味を表す。そのようすを客観的に叙述する動詞になっているので、小説の地の文や（中略）自分を客観視している場合をのぞけば一人称では使わないのがふつう。

しかし、この記述とは異なり、一人称の接尾辞「がる」について小説の地の文以外にも、発話文に出現する用例が約 30%見られ、発話文における一人称と接尾辞「がる」の共起も看過できないと言える。

3-3-3 前接形容詞の分類

人称別に接尾辞「がる」の前接形容詞を出現頻度順に示した表 4、表 5、表 6 を示す。

⁴ 括弧（「、『』）を用いた表現を発話文とした。さらに、以下のような人名の後に台詞のような表現が続く用例も、発話文に含めた。

・文字子 だけどね、もしそういうふうに悩むのだったら、それはどこかでいい見世物としてのヴァイオリン弾きに、なりたがっているのよ、あなたは。
真理子 そうかねえ。 (LBt7_00056, 46610)

表4 一人称の前接形容詞の用例数と割合（総数617・異なり語数53）

順位	形容詞	用例数	割合（総数617）	分類
1位	可愛い	153	24.80%	A
2位	怖い	81	13.13%	B
3位	嫌な	75	12.16%	A
4位	面白い	52	8.43%	C
5位	欲しい	45	7.29%	A
6位	恥ずかしい	19	3.08%	A
6位	羨ましい	19	3.08%	A
8位	不思議な	13	2.11%	A
8位	粹な	13	2.11%	なし
10位	悔しい	13	2.11%	A
合計		483	78.28%	

表5 二人称の前接形容詞の用例数と割合（総数535・異なり語数40）

順位	形容詞	用例数	割合（総数535）	分類
1位	怖い	160	29.91%	B
2位	可愛い	111	20.75%	A
3位	嫌な	56	10.47%	A
4位	恥ずかしい	48	8.97%	A
5位	欲しい	39	7.29%	A
6位	面白い	13	2.43%	C
7位	羨ましい	10	1.87%	A
8位	悔しい	8	1.50%	A
9位	嬉しい	8	1.50%	A
10位	面倒くさい	7	1.31%	B
合計		460	85.98%	

表6 三人称の前接形容詞の用例数と割合（用例数4278・異なり語数101）

順位	形容詞	用例数	割合（総数4272）	分類
1位	嫌な	952	22.25%	A
2位	可愛い	644	15.05%	A
3位	欲しい	586	13.70%	A
4位	怖い	441	10.31%	B
5位	面白い	304	7.11%	C
6位	悔しい	131	3.06%	A
7位	痛い	113	2.64%	D
8位	恥ずかしい	108	2.52%	A
9位	不思議な	74	1.73%	A
10位	羨ましい	70	1.64%	A
合計		3423	80.13%	

分類は村上（2017：77-79）⁵による

⁵ 村上（2017）は、3つの指標を用いて形容詞の分類を行い、A群とB群の形容詞を感情形容詞、C群とD群を属性形容詞としている。感情形容詞でも、A群は「より経験者の感情を述べることを志向する形容詞」、B群は「対象の状態を述べることをも志向する形容詞」

出現する形容詞の種類について人称による違いは特段に認められない。また、接尾辞「がる」に前接する形容詞は、村上（2017）において A 群に分類される形容詞が多く見られた。村上（2017）において A 群は感情形容詞と考えられており、接尾辞「がる」に前接する形容詞は感情形容詞が多いことがわかる。

ところで、いずれの人称においても上位に「可愛い」という形容詞が見られる。村上（2017）は、「かわいい」を例外的に A 群に入れた形容詞であると説明している。さらに、接尾辞「がる」について言及した富田（2003）、伊藤（2019）でも、「可愛い」に接尾辞「がる」が接続した「可愛がる」について、例外的に一人称でも用いられると述べており、特に伊藤（2019）は、その理由について「心理状態を外に示すという意味合いがなく、かつ、否定的な意味合いもない」からであると述べている。表 4 からわかるように、本稿においても、一人称の接尾辞「がる」の前接形容詞は「可愛い」が最も多いことが明らかとなった。また、いずれの人称においても上位に見られることから本稿でも「可愛がる」を個別に扱うことにする。

4. 用例の分析

4-1 文末用法とその他

本稿では、対象を文末用法に限定する。従来の研究では主体が第三者の場合、感情・感覚形容詞を言い切りの形で用いることができないと指摘するように、文末用法に焦点があてられた議論が多いこと、「はじめに」で述べたように、学習者にとって一人称と二人称と接尾辞「がる」の共起関係が学習者の関心事であること、の 2 点から本稿では、ひとまず文末における一人称と二人称の接尾辞「がる」の使用実態を調査することにしたい。

従属節を体系的に示したものに、前田（2020）が挙げられる。前田（2020）は、従属節を「連体節」「連用節」の 2 つに分け、前者をさらに「補足節」と「名詞修飾節」、後者を「副詞節」と「等位節・並列節」に分類している。しかし、具体的に以下の用例について、前田（2020）では、「名詞修飾節」に区分されるものと思われるが、『教師と学習者のための日本語文型辞典』（1998：123）では、「ことはない」全体で 1 つの文型として扱っている。

- (5) 「こわがることはない。わたしが命を助けてやるから。」と、王さまザルは言
って、手下のサルをなだめました。 (LBbn_00009, 19430)

このように、日本語教育への還元を考えた場合、「ことはない」を全体で 1 つの文末表現とみなすとの立場もある。本稿では日本語教育に寄与する立場から、文型指導も念

と説明している。そして C 群は属性形容詞であるが、感情形容詞のように感情を表すこともあり、D 群は「典型的な属性形容詞である」と述べている。詳しくは村上（2017）を参照されたい。

頭に入れて便宜的に以下のタイプを文末用法に含めた。

- ・～がるからだ。
- ・～がる（がった）ものです。
- ・～がってはいけない。／てはいない。
- ・～がってもいい。／てもいい。／てもしようがない。
- ・～がっているわけではない。
- ・～がる必要はない。
- ・～がるほどです。
- ・～がるばかりです。
- ・～がるためではない。
- ・～がったりはしない。
- ・～がってなんぞいやしない。
- ・～がられるくらいです。
- ・～がるつもりはなかった。
- ・～がることがある。／ことにする。／こともある。
- ・～がっているばかりでもいられない。
- ・～がる場合ではない。
- ・～がり続けたせいだろうか。
- ・～がらずにはいられない。

4-2 一人称の分析

一人称が主語の用例について、文末用法とその他⁶に分類した。分類し、集計した一覧が表7である。

本稿では文末用法における一人称の接尾辞「がる」の用例を以下の3つの使用場面に分類する。[自分の性格や性質を述べる場面] [自分の行動を振り返る場面] [自分自身に言い聞かせる場面] の3つである。

表7 一人称の文末用法とその他の用例数と割合

	文末用法	その他	合計
用例数	221	468	689
割合	32.08%	67.92%	100%

4-2-1 自分の性格や性質を述べる場面

一人称における接尾辞「がる」は、自分の性格や性質を述べる場面において使用される。下記の用例は、波線部の「欲の多い私」という表現から、自分の性格について述べている文であると考えられる。(7)のように「所有したい」に置き換えると、人によって許容度が分かると考えられる。(6)の「所有したがる」という表現は、「所有し

⁶ 文末用法以外はその他に分類した。

たい」に比べ、執着の意が強く読み取れる。(6)では「物が欲しい」という感情が1回限りのことではなく、何回も生起する意味が感じられる⁷。

- (6) 龍と麒麟は最後のかさぶたを作り、それも完全にはがれ、完璧に私の物となった。所有、というのはいいい言葉だ。欲の多い私はすぐに物を所有したがる。
(OB6X_00256, 77930)

- (7) ? 龍と麒麟は最後のかさぶたを作り、それも完全にはがれ、完璧に私の物となった。所有、というのはいいい言葉だ。欲の多い私はすぐに物を所有したい。
(作例)

4-2-2 自分の行動を振り返る場面

一人称における接尾辞「がる」は自分の行動を振り返る場面においての使用も確認される。下記の一人称の接尾辞「がる」は、一人称の具体的な動作を表すものである。波線部の「それも皆のいる前でわざと効果をねらうやり方だった。」とあるように、「持ちたがった」の方が、周囲の人間にもわかるように態度に表していることが分かる。「持ちたかった」という感情を表すだけであれば(9)で表現できる。しかし、「持ちたかった」という表現では、「私」が「持ちたかった」という感情を持っていたことが分かるだけで、実際に行動したかどうかまでは意味していない。そのため波線部の「それも皆のいる前でわざと効果をねらうやり方だった。」という明確な動きがあったことを示す表現と合わず、不自然な文章となる。

- (8) ゆうべ一人になった時の悲劇役者めいた私とは事かわって、宿を出るときの私は、はやくも軽薄な騎士気取で園子の荷物を持ちたがった。それも皆のいる前でわざと効果をねらうやり方だった。
(LBr9_00156, 20190)

- (9) ? ゆうべ一人になった時の悲劇役者めいた私とは事かわって、宿を出るときの私は、はやくも軽薄な騎士気取で園子の荷物を持ちたかった。それも皆のいる前でわざと効果をねらうやり方だった。
(作例)

4-2-3 自分自身に言い聞かせる場面

一人称における接尾辞「がる」は自分自身に言い聞かせる場面においての使用も見受けられる。以下の用例は、自分自身を二人称のように捉えて、二人称に語り掛けているように感じられる表現である。接尾辞「がる」を用いることで、自分自身を別視点から捉えて述べる表現になると言える。

⁷ (7)は「所有したくなる」に置き換えが可能で、「感情が何回も生起する」という解釈は、接尾辞「がる」の使用によるものとは言えないのではないかという指摘を頂いた。接尾辞「がる」が持つ意味については今後詳細に検討したい。

- (10) 坊っちゃんグループは別れにいろいろやってたけど、俺は完全無視。近づけもしなかった。遠くから見てただけで、はい、さようなら。そのあと、そいつと良生が文通してるってことがわかって、がくぜんとした。くやしがつてもしょうがない。負けたんだと、自分に何度もいいきかせた。

(OB1X_00305, 97720)

4-2-4 文法の観点から一頻度を表す表現との共起一

これまで使用場面ごとに用例を見てきたが、以下では文法の観点から用例を見ていく。一人称の接尾辞「がる」について、「たびに」や「いつでも」といった頻度を表す表現が共起しやすいことも特徴として指摘できる。以下の用例は「たびに」という表現と共起している例である。「たびに」という表現は動作が繰り返し行われることを意味するため、「仕立て上げたい」ではなく、回数性が感じられる「仕立て上げたがる」が使用されると考えられる。(11) を置き換えた (12) は不自然な表現となる⁸。

- (11) どうして俺は、亜美を見るたびに、彼女をか弱い、助けを求めてやまない
囚われの王女に仕立てあげたがるのだろう。 (LBk9_00049, 16780)

- (12) ? どうして俺は、亜美を見るたびに、彼女をか弱い、助けを求めてやまない
囚われの王女に仕立てあげたいのだろう。 (作例)

以上の分析から、一人称における接尾辞「がる」の使用実態を、次のようにまとめることができよう。

- (A) 一人称の接尾辞「がる」はいわゆる文末用法よりも文中に多く見られる。
- (B) 一人称の接尾辞「がる」の使用場面は大きく3つに分けられる。「自分の性格や性質を述べる場面」、「自分の行動を振り返る場面」、「自分自身に言い聞かせる場面」の3つである。
- (C) 接尾辞「がる」を用いると、感情を表すだけでなく、具体的な動作を表すこともできるため、動作がわかる表現とともに用いられる。
- (D) 接尾辞「がる」を用いると、回数性が感じられ、頻度を表す表現との共起が多く見られる。
- (E) 接尾辞「がる」を用いることで、自分のことを別の視点から述べるニュアンスが感じられる表現となる。

⁸ 本稿では、一人称において接尾辞「がる」が選択される場面として (12) の用例を提示した。「たびに」のような頻度を表す表現がある場合に接尾辞「がる」が使われやすいのは、接尾辞「がる」の有無の問題ではなく、動態述語か静態述語かがポイントではないかという指摘を頂いた。今後は「動態述語」「静態述語」といった文脈上の使用環境、さらには「～したがる」と「～したくなる」の違いについても詳しく見ていきたい。

4-3 二人称の分析

主語が二人称の用例について、文末用法とその他に分類し、まとめたものが表8である。

表8 二人称の文末用法とその他の用例数と割合

	文末用法	その他	合計
用例数	276	352	628
割合	43.95%	56.05%	100%

本稿では文末用法における二人称の接尾辞「がる」の用例を以下の4つの使用場面に分類する。[決めつける場面] [助言する場面] [問いかける場面] [確認する場面] の4つである。

4-3-1 決めつける場面

二人称の言動をふまえて、二人称が形容詞で表される感情を持っていると決めつける場面での使用が見られた。以下の例は、波線部の二人称の発言を聞いて、二人称が「バランスを取りたい」という感情を持っていると決めつけている表現である。このとき、発話者は二人称の感情を「決めつけている」ため、二人称が本当にその形容詞で表されている感情を持っているかどうかは問題にしていまいと考えられる。

- (13) 「みんなで暗い顔をして、西条は喜ばないよ。みんなが楽しい時間を過ごすのが西条にとって一番いい供養なんじゃないか」「お前は、すぐそうやってバランスを取りたがるんだよ」 (LBm9_00128, 75630)

また、以下の用例の波線部のように否定的・批判的な表現との共起が多く見られ、二人称が形容詞で表される感情を持っていると決めつけ、批判する場面での使用が多く見られた。二人称が本当にその形容詞で表される感情を持っているかどうかを問題とせず、一方的に二人称の感情を決めつけている。

- (14) 「補償はしているはずだ」「していない。闇の部分は、あんたたちはあくまでも覆い隠す。だから、こんな官邸占拠事件すら、報道させたがらない」 (PB49_00136, 20910)

4-3-2 助言する場面

助言や禁止する場面において、以下のような用例が見られた。いずれも形容詞に接尾辞「がる」が接続した動詞文に、助動詞や否定辞がついたものである。形容詞は、現代日本語において命令法などの対人的ムードというカテゴリーを持たないため、接尾辞「がる」を接続し、動詞述語にする必要がある。

- (15) 「あなたなんかこわくないわ」ジェマは強がりを使った。「だったらこわがるべきだよ。早く出ていかないと、きみをとことん墮落させてやる！」 (PB39_00483, 74410)

- (16) 皆、通ってきた道ですから、恥ずかしがらないで。若い人のみならずオジちゃんオバちゃんも自分で揃えようと何回もトライしてるのをたまに見かけます。
(OC15_00977, 3170)

4-3-3 問いかける場面

疑問詞が付加された「補充疑問文」(『日本語文法事典』(2014: 153))を用いて尋ねる場面において、以下のような用例が見られた。二人称の言動を、形容詞で表現される感情の表れであると捉え、そのように振る舞うことについて尋ねている。以下の用例は、二人称の質問から、「なんで知りたがる?」と尋ねており、二人称の言動を踏まえて尋ねる表現であると言える。

- (17) 「いい歌だ」おわると、ドビーは言った。ミッチは歯を見せて笑うと、ギターをわきにおいた。「あんた、何者なんだ、ドビー? どこからきた?」「なんで知りたがる?」
(LBe9_00118, 69960)

また、以下の用例のように「そないに」や「そう」といった、直前の二人称の発言を指す語との共起が多く見られた。「そないに」や「そう」と共起することで、二人称の言動が程度を越えて甚だしいと決めつけて、その理由を尋ねる表現である。

- (18) 「どっちでもええことあれへん。沖縄の料理のことは、おれの方がくわしいねん。おまえはあっちで飲んどれや」「れい子さんはおまえの恋人でもあるまいし、なんで、そないにひとりじめにしたがるねん」
(LBkn_00018, 32590)

- (19) 「もうひとつ、目玉焼をどうかね」「けっこうです!」「なんでそういやがるのかな」
(LBb9_00068, 49030)

つまり、二人称を主語とした疑問文で接尾辞「がる」を用いることができるのは、二人称の言動を見聞きしたときだけである。会話の場面の冒頭で接尾辞「がる」を用いると、不自然になると考えられる。具体的に以下の例を挙げる。

- (20) (ファミレスに到着してすぐメニューを開いて) 何を食べたい? (作例)
(21) ?? (ファミレスに到着してすぐメニューを開いて) 何を食べたがっている?
(作例)

上記の用例のように、「何を食べたい?」は、二人称の言動に関係なく用いることができるのに対して、「何を食べたがっている?」を二人称の言動などの前提がない会話の冒頭で用いることはできない。以下のような二人称が何らかの言動を見せ、それが二人称

の「食べたい」という感情の表れであると判断した場合に、「何を食べたがっている？」と尋ねることができる。

- (22) 「食べたいものがいっぱいあって困るなあ。」
 「ええ、何を食べたがっているの？」 (作例)

4-3-4 確認する場面

応答が「はいいいえ」の形をとる「真偽疑問文」(『日本語文法事典』(2014:153))を用いて尋ねる場面において、以下のような用例が見られた。(23)のように、ほとんどの用例が「～がっている(～がっていた)？」の形で使用されている。いずれの用例も二人称の言動を見聞きし、それを踏まえて尋ねる表現である。「～がっている(～がっていた)？」の形で確認しているのは二人称の状態である。つまり二人称が形容詞で表される感情・感覚を持っているかを確認する表現であると言える。

- (23) 自転車のスピードは、のろくなりました。「風というものは、どうかすると人の声のように聞こえるもんだ。」と、ヤットカじいさんがいいました。「ほんとうに風だろうか。」キラップ女史は、しんけんにおびえた声を出しました。「こわがっているのか」「とうぜんだよ。わたしは、かよわい女性だよ。とうぜん、あなたに守ってもらう権利がある。」 (LBen_00003, 55970)

以上の分析から、二人称における接尾辞「がる」の使用実態は、次のようにまとめられる。

- (I) 二人称の接尾辞「がる」はいわゆる文末用法よりも文中に多く見られる。
- (II) 二人称の接尾辞「がる」の使用場面は大きく 4 つに分類される。「決めつける場面」、「助言する場面」「問いかける場面」、「確認する場面」の 4 つである。
- (III) 二人称の言動をふまえて、二人称の言動に対して接尾辞「がる」が用いられる。二人称の感情・感覚を形容詞の言い切りの形で述べることは強い制限があるため、接尾辞「がる」が必要となる。過去時制にすると接尾辞「がる」を接続しなくても許容度は高い。
- (IV) 否定的な表現と共起し、批判する場面での使用が多い。
- (V) 「問いかける場面」では、二人称の言動を踏まえて尋ねるときに接尾辞「がる」が使用される。「そんなに」や「そう」といった直前の二人称の言動を指す語との共起が多い。
- (VI) 「確認する場面」では、「～がっている？」の表現が多い。

4. 日本語教育における提示のポイントと今後の課題

劉（近刊）では学習者の学習経験に基づき、接尾辞「がる」の指導ポイントとして、三人称との共起を提示し、一人称・二人称との共起使用を推奨しないことを提案している。本稿で、接尾辞「がる」の用例の80%以上が三人称との共起するものであったことから、接尾辞「がる」を三人称との共起を中心に指導し、一人称との共起使用を推奨しないという提案は妥当であると考えている。しかし、二人称は、「助言する場面」において動詞述語にする必要があることから、接尾辞「がる」との共起は提示する必要があると思われる。

以上を踏まえて一人称・二人称における接尾辞「がる」の指導ポイントをまとめる。1点目は、人称に関係なく用いられる動詞として「可愛がる」を個別に取り上げることである。形容詞「可愛い」に接尾辞「がる」が接続したものと考えてのではなく、「可愛がる」で1語として提示することを提案する。2点目は、一人称において接尾辞「がる」を用いた場合、客観的なニュアンスが加わることについて理解を促すのが良いと考える。3点目は、二人称の接尾辞「がる」について、従来のように三人称とまとめて人称制限の解除表現として導入すると、「助言する場面」で用いられる表現が見過ごされてしまう。この場面において使用される接尾辞「がる」を動詞用法として意味の説明とともに提示する必要があると考える。

最後に、本稿では一人称と二人称における接尾辞「がる」の使用実態を「文末用法」に限定して考察を行ったが、「文末用法」以外、即ち従属節における人称と接尾辞「がる」の使用実態について述べられなかった。従属節における接尾辞「がる」を含めた、接尾辞「がる」全体の仕組みや出現条件について、体系的に示す必要があると考える。これについては稿を改めることにしたい。

参考文献

- 伊藤龍太郎（2019）「一人称単数主語の場合の心理動詞の使用に関する考察」『日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す』ひつじ書房，pp.75-122.
- 大塚望（2004）「「たい」と「たがる」—主語の人称を中心として—」『新潟大学国語国文学会誌』46，新潟大学，pp.42-64.
- 鎌田修（2000）『日本語の引用』ひつじ書房
- 韓金柱（2010）「現代日本語における接尾辞「がる」の意味・用法—様態の「そうだ」と比較して—」『言語・地域文化研究』16，東京外国語大学大学院，pp.271-284.
- グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 黄其正（2004）『現代日本語の接尾辞研究』溪水社
- 澤田治美（2004）「認知言語学的アプローチ「たい／たがる」の主語の人称制限をめぐって」『月刊言語』10，pp.74-80.
- 田中稔子（1989）「現代日本文法の問題点（一）」『国文学解釈と鑑賞』54-4，至文堂，pp.185-188.

- 富田隆行（2003）『これだけは知っておきたい日本語教育のための基礎表現 50 とその教え方』凡人社
- 中里理子（1992）「従属節における「たい」と「たがる」」『言語文化と日本語教育』3、お茶の水女子大学日本言語文化学会、pp.12-23.
- 長友文子（2000）「「たい・たがる」再考—「い・がる」での教え方—」『和歌山大学教育学部紀要 人文科学』50、和歌山大学教育学部、pp.1-10.
- 西尾寅弥（1975）「第6章「ぼくは悲しい」けれど「彼女は悲しがる」」『日本文法の見えてくる本』汐文社、pp.81-96.
- 日本語教育学会（1982）『日本語教育事典』大修館書店
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部（2001）『日本国語大辞典（第二版）』小学館
- 日本語文法学会（2014）『日本語文法事典』大修館書店
- 文化庁『外国人のための基本語用例辞典（第三版）』（1990）大蔵省印刷局
- 前田直子（2020）「8 文法③ —日本語文法のトピック—」滝浦真人編著『（放送大学）日本語学入門』放送大学教育振興会、pp.141-156.
- 三上章（1972）『現代語法序説 シンタクスの試み』くろしお出版
- 村上佳恵（2017）『感情形容詞の用法—現代日本語における使用実態—』笠間書院
- 森田富美子（1988）「接尾辞「～がる」について」『東海大学紀要』8、東海大学留学生教育センター、pp.1-15.
- 劉志偉（近刊予定）「対照研究」庵功雄編『学習者の気持ちができる日本語教育入門』ひつじ書房

使用データ

- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（通常版）
コーパス検索アプリケーション中納言使用（<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>）

（埼玉大学教養学部学部生）